

## 大腸癌周術期管理における ERAS の導入とその効果

とよ 豊 田 暢 彦 水 谷 和 典 谷 浦 隆 仁  
はっ 服 部 晋 司 み 三 浦 義 夫 しお 塩 田 摂 成

キーワード：ERAS，周術期管理，腹腔鏡補助下大腸切除術

### 要 旨

【目的】大腸癌周術期管理に ERAS を導入しその効果を検討した。

【対象と方法】2011年より2016年6月までに経験した大腸癌75例を対象とし，ERAS に基づく周術期管理を施行した群（ERAS 群）と施行しなかった群（対照群）に分け，術後経口摂取開始時期，歩行開始時期，術後合併症，術後在院日数を検討した。

【結果】術後経口摂取時期および歩行開始時期は ERAS 群で対照群に比べて有意に早かった ( $p < 0.05$ )。術後合併症は ERAS 群で2例に麻痺性イレウスを認め，対照群で8例（SSI 6例，肺炎2例，麻痺性イレウス3例：重複含む）に認めた。術後在院日数は ERAS 群で平均7.3日であったが，対照群では10.5日と有意に長かった ( $p < 0.05$ )。

【結語】大腸癌周術期管理における ERAS の導入は有用である。

### はじめに

ヨーロッパで提唱された ERAS (Enhanced Recovery After Surgery) は大腸癌手術患者の術後回復能力強化プログラムであり，2005年のコンセンサスレビューで用いられた図が有名である(図1)<sup>1)</sup>。近年本邦にも導入され，徐々に実臨床で行われるようになってきた<sup>2,3)</sup>。今回，大腸癌周術期の栄養管理において，ERAS の各種プログ

ラムを導入し，その効果を検討したので報告する。

### 対象と方法

2011年より2016年6月までに経験したイレウスを併発していない大腸癌75例（ただし Rb でストーマ造設例は除く）を対象とした。いずれも腹腔鏡補助下手術を行い，後述する ERAS に基づく周術期管理を施行した群（ERAS 群：40例）と施行しなかった群（対照群：35例）に分け，術後経口摂取開始時期，歩行開始時期，術後合併症，術後在院日数を検討した。

統計学的解析には，t 検定を用いて  $p < 0.05$  の

Nobuhiko TOYOTA et al.

益田赤十字病院外科

連絡先：〒698-8501 益田市乙吉町イ103-1

益田赤十字病院外科